

万葉の時代から和歌の聖地として憧れられた「絶景の宝庫 和歌の浦」が日本遺産に!

2017年4月に日本遺産に認定された「絶景の宝庫 和歌の浦」は、和歌山市の和歌浦から海南市の熊野参詣道までと広範囲に及ぶ。紀州東照宮や玉津島神社はもとより、菅原道真が太宰府に向かう途中、実際に停泊したことが発端と伝わる和歌浦天満宮や、西国三十三所第二番札所紀三井寺、紀州徳川家歴代の廟所がある長保寺や黒江の街並みなどをはじめ、江戸時代の風流芸能を今に伝える和歌祭や和歌の浦の景色を描いた南紀男山焼など歴史的にも文化・芸術的にも優れた計31点が構成文化財として登録された。



江戸時代の絵師桑山玉洲(くわやまぎょくしゅう)が描いた和歌浦十景、「明光浦十覧冊玉津春曉」。後に多くの絵画や美術工芸品に写された。個人蔵(写真提供:和歌山県立博物館)

和歌山県観光振興課
電話/073-441-2424



名草山や船尾山、藤白岬を望む和歌の浦。夜明けを迎え静寂な時が動き出す。今もまるで一幅の絵のようだ。

古の都人も憧れた
万葉の聖地

和歌の浦が「万葉の聖地」として、広く都の人々に知られるようになったのは、聖武天皇の玉津島行幸からであるといえる。奈良の平城京から山部赤人をはじめ多くの従者と共に和歌の浦に到着し、初めて海を見た感動は驚きに近いものだったに違いない。現在の和歌の浦は当時の紀の川河口にあたり、現在よりも内陸まで水を湛えていたという。山部赤人は長歌※で天皇家の平安と永遠を言祝ぎ、玉津島の美しさや尊さを讃えた。そして反歌として歌った有名な1首が以下である。

若の浦に潮満ち来れば 湯を無み
牽辺をさして 鶴鳴き渡る (万葉集)

玉のように連なる玉津島六山と霞む山並み。潮の満ち引きで見え隠れする片男波や広い干潟は、海のない地に住む都人には、まるで神の所業のようにも見えただろう。時間に追われる現代人の観光ではなく、移ろいゆく時の流れをじっくりと眺める旅は優雅で贅沢である。そして聖武天皇は「弱浜」の名を改めて「明光浦」とし、この素晴らしい景観をいつまでも残すよう詔を発し、春秋の二回、役人を派遣したという。歌人達は都の人々に和歌を通して、「和歌の浦の素晴らしさを伝える。それは憧れとなり、後世まで多くの歌人が歌枕を巡る為に和歌の浦を訪れ、また和歌を詠み、後に徳川家も和歌の浦を保護する。和歌の浦の素晴らしさは、絶景だけでなく、歴史や文化がまるで地層のように上に上にと重なって存在することではないだろうか。

地も憧れた



(mind Tracking)

江戸時代前期(寛永末年頃)に描かれ、現在確認されている最古の和歌浦図屏風の一部。玉津島神社を中心に、塩田で働く人や遊興にふける人々など当時の風俗がきめ細かく描かれている。(和歌山県立博物館蔵)

聖武天皇と紀の国

小泉淳作・画「聖武天皇御影」提供:東大寺



即位したその年(724年)に14日も滞在するなど、聖武天皇は大いに和歌の浦が気に入ったようだ。上図の御影は、意匠も含め想像図だが、左肩に八咫鳥が描かれている。八咫鳥といえば熊野三山の象徴であり、神武東征で神武天皇を大和国へ道案内をした導きの神鳥のイメージが想起されるどころだ。また和歌山県内最古の寺である道成寺は、聖武天皇の父、文武天皇の勅願により建立され、興味ひかれる逸話として、聖武天皇の母である藤原宮子は、道成寺近くに住む村長の娘「髪長姫」であったという物語が伝わっている。

道成寺
住所/日高郡日高川町 鐘巻1738
電話/0738-22-0543

道成寺の宝佛殿では、平安時代初期の千手観音菩薩をはじめ、国宝3点、重要文化財11点などが間近で見ることができる。



東京に和歌浦があるって知ってました?

造園当初から小石川後楽園と共に、江戸の二大庭園に数えられている六義園は、5代将軍徳川綱吉公の側用人で、文学に造詣の深かった柳澤吉保自らが設計・指揮し、元禄8(1695)年和歌浦を模して作られた雅な大名庭園。紀ノ川をはじめ片男波や妹背山、藤代岬など、和歌浦の景勝や和歌に詠まれた名勝が八十八境として再現されている。明治には三菱創設者・岩崎弥太郎の所有となり、その後昭和13年から一般公開され、現在は国の特別名勝に指定されている。

六義園
住所/東京都文京区本駒込6-16-3 電話/03-3941-2222



玉津島六山のひとつ、錦山から徳川治宝公の命により建てられた不老橋〜片男波を眺める。向こう岸の藤白岬まで見ることができる。



※やすみしし わご大君の 常宮と 仕へ奉れる 雑賀野ゆ そがひに見ゆる 沖つ島 清き渚に 風吹けば 白波騒ぎ 潮干れば 玉藻りつつ 神代より しかそ興き 玉津島山

玉津島神社

和歌三神の一柱である衣通姫尊を祀り、境内には山部赤人や藤原卿の歌碑などが建つ。平成4年に修復が完成した本殿は、漆塗りで春日造りが美しい。「和歌の浦は四季だけでなく、1日の間でもその景色が変わり、見ていて飽きることはありません」と玉津島神社権禰宜の遠北喜美代さん。

住所/和歌山市和歌浦中3-4-26 電話/073-444-0472

